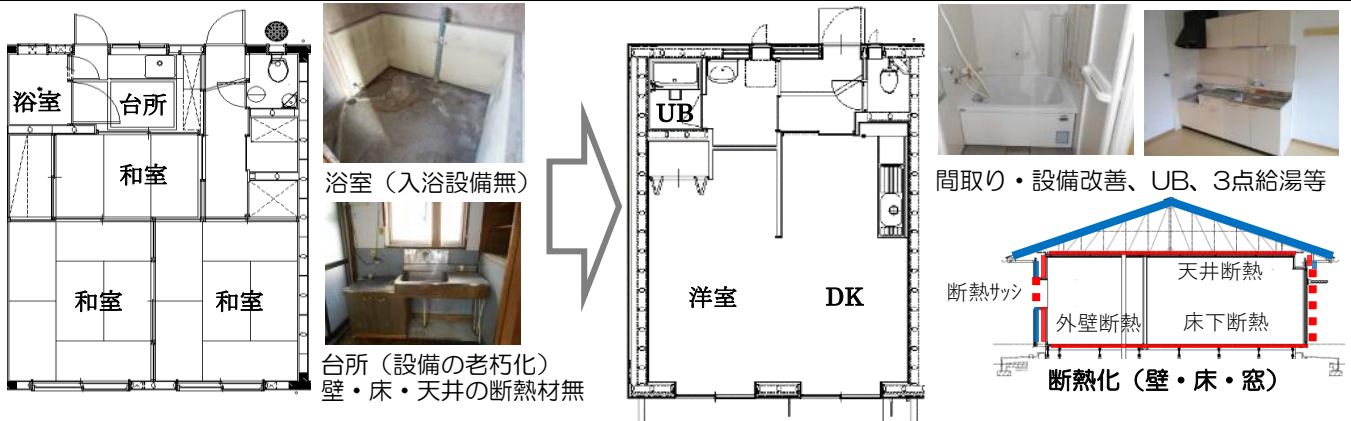


県営住宅改善事業（リニューアル）における省エネ検証について

今後も維持管理が必要なS40年代以前に建設し、老朽化した県営住宅において、順次、入浴設備の設置や設備断熱改修などを行い、居住環境の向上を図っています。

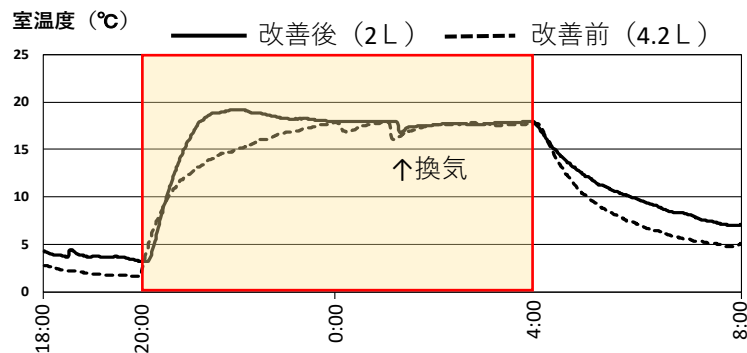
【事業概要】県営住宅リニューアル（全面的リフォーム）事業の概要



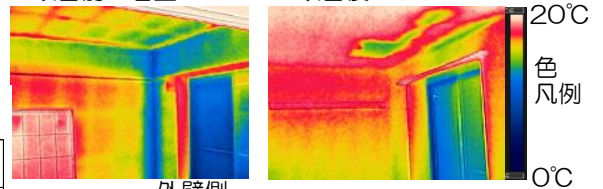
【検証1】改善前後空家での暖房器具（ファンヒーター）による検証

【測定条件】○ファンヒーターで室温を20℃に設定して、20:00～4:00の間 暖房
○冬季(1月上旬の夜間)、外気-4～-6℃

【測定結果】（ ）内：灯油使用量



【サーモグラフィによる撮影】暖房終了後4:00時点
改善前の居室 改善後のLD

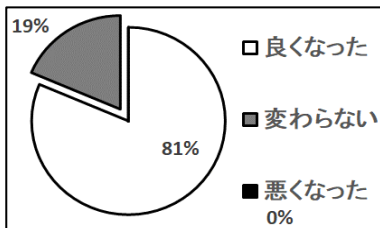


＜考察＞ 外壁側

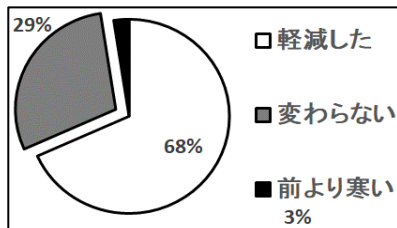
- 室 温まりやすく、冷めにくい
 - 灯油使用量が約半分に（暖房効率良い）
 - 天井・壁面の温度が高い（断熱性大）
- 改善前住宅は、天井等からの熱損失大
⇒改善後住宅の方が「省エネで快適」

【検証2】従前住戸から移転した入居者アンケート（H31年2月実施）

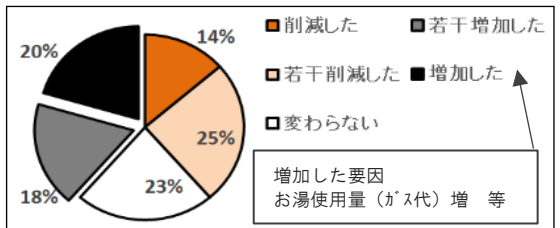
＜断熱性能 約8割が満足＞



＜冬の入浴の寒さ 約7割軽減＞



＜冬の光熱費 約4割の住戸が削減を実感＞



【検証3】改善後住戸入居者の声（住み心地・浴室使用状況）

【生活の満足度、生活の変化等】

- 快適である。使いやすい。気分が良い。生活が楽。
 - 活動的になった。満足である。
 - 孫が泊まりに来るようになった。（暖かい、安心）
- ⇒心の満足：身体へも良い影響を与える。

【削減された光熱費を活用して行っていること】

- おいしいものを食べる。
- ・暖房費用はあまり変わらない（温める部屋が大きくなったため）
- ・3点給湯（風呂、洗面、台所）に改修されたので、お湯を多く使えるようになった（ガス代は増）

【冬の入浴に際しての寒さの感じ方】

- 旧住宅より、寒さが軽減している。
- 足元が冷たくない。
- 入浴前は、廊下の建具を開け、LDの暖気で洗面所、浴室を暖めている。

（参考）改善前後での入浴前の浴室状況

